

(7) 近畿



近畿地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は一部に持ち直しの動きがみられるもののおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善している。

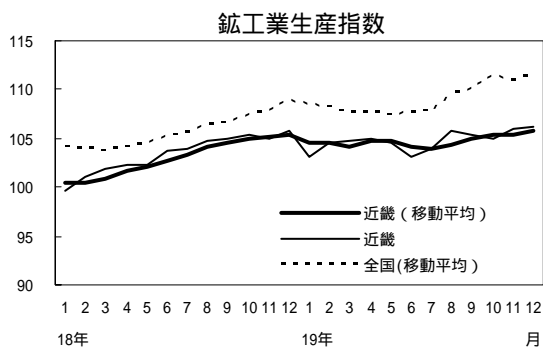
前回調査からの主要変更点

なし。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

一般機械は、ガスタービンやボイラー、フラットパネルディスプレイ製造装置等が不調だったことから減少している。化学は、石油精製用触媒や界面活性剤等が不調だったことから減少している。電気機械は、リチウムイオン蓄電池が一部工場の火災で減少したものの、エアコン等が好調だったことからおおむね横ばいで推移している。食料品・たばこは、清酒が不調だったことから減少している。電子部品・デバイス、アクティブ型液晶素子が携帯電話向けやパソコン向けに好調だったことから増加している。



(備考) 1. 12年=100、季節調整値。近畿の最新月は速報値。

2. 全国及び近畿の太線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

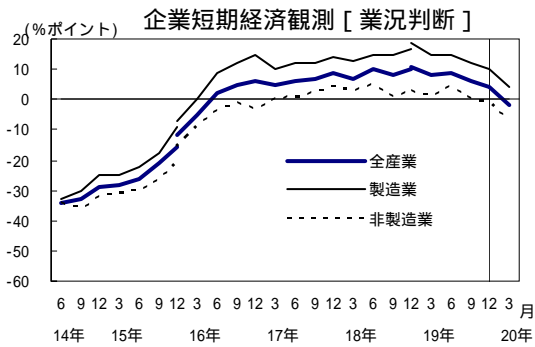
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
一般機械	15.0	0.3	6.0	5.6	5.3
化学	12.8	0.9	1.3	2.1	3.8
電気機械	10.1	4.8	0.3	13.4	16.1
食料品・たばこ	8.1	0.8	1.2	0.7	10.1
電子部品・デバイス	7.9	2.5	10.4	9.7	13.6
鉱工業	100.0	0.8	0.7	0.7	4.6

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

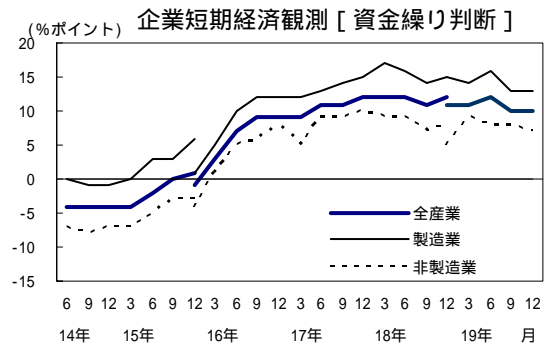
2. 10~12月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

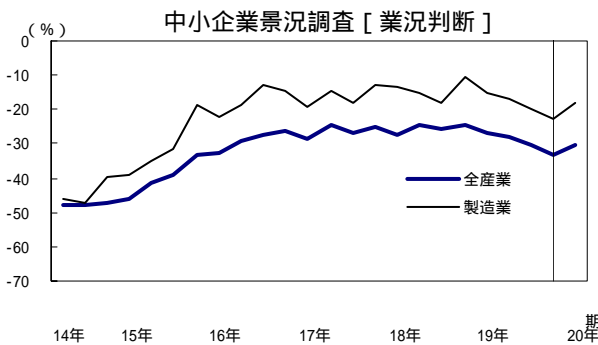
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年3月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

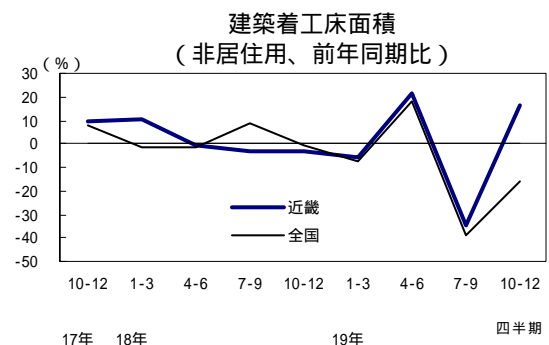
「今年に入っても原材料、資材の値上げ交渉が活発に行われているが、状況を見る限り、値上げ後は売上が減少していることが多い。競合他社が価格を据え置いている場合はそちらに注文が流れるため、全体的に売行きが鈍い(食料品製造業)」など「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績	19年度計画
全産業	4.1	18.6(2.9)
製造業	12.1	15.0(2.2)
非製造業	2.4	22.6(3.7)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費は一部に持ち直しの動きがみられるもののおおむね横ばいとなっている。

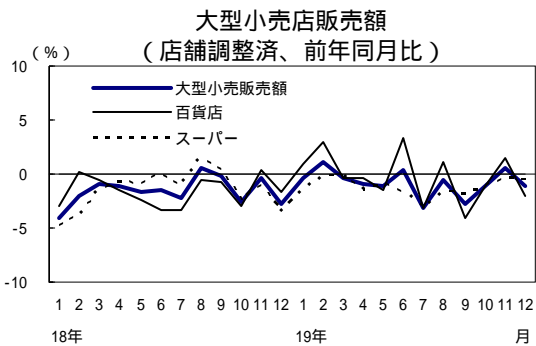
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、飲食料品やその他の商品に動きがみられたものの、月前半に気温が高めに推移したことから主力の衣料品が振るわず、全体としては前年を下回った。11月は、気温が高めに推移したことからマフラーや手袋といった身の回り品は不調だったものの、一部店舗のセール効果や歳暮ギフトの早期受注が好調だったことから、衣料品や飲食料品、その他の商品に動きが見られ、全体としては前年を上回った。12月は、セール前の買い控えからコートや婦人用ロングブーツなど衣料品、身の回り品の動きが鈍く、また飲食料品では、歳暮ギフト向けのハムやビールなどが前月の反動で伸びなかったことなどから、全体でも前年を下回った。なお、近畿百貨店協会によると、大阪地区の1月の売上高は、前年同月比で1.8%減となっている。

スーパーは、原材料価格の高騰による価格上昇や相場高から野菜、果物などの生鮮食品や酒類など飲食料品に動きがみられたものの、衣料品が振るわず、全体では前年を下回っている。

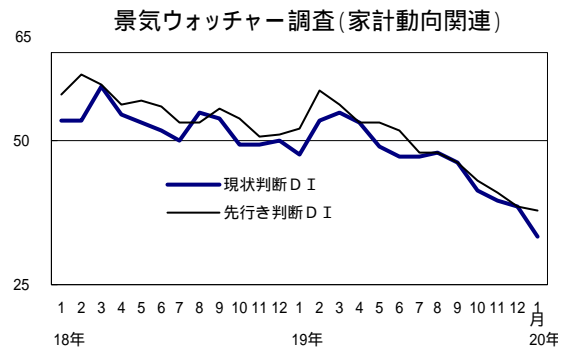
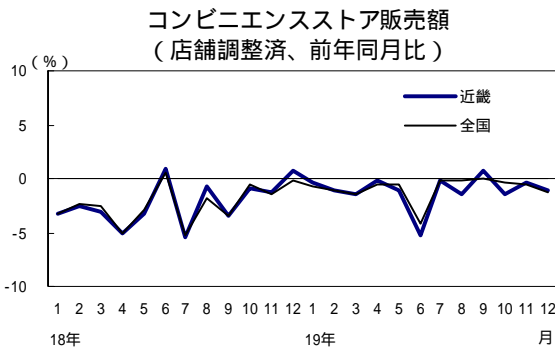
景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「家族4人でハワイに行く予定の客が、燃油サーチャージが10万円近くになるために国内旅行へ変更するなど、サーチャージが売上にも影響している(旅行代理店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	19年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	0.1	0.6	2.2	0.7
百貨店	1.0	0.5	2.2	0.7
スーパー	0.7	1.4	2.2	0.7
コンビニ	1.0	2.3	0.3	1.0
景気ウォッチャー	51.8	49.7	46.9	39.7

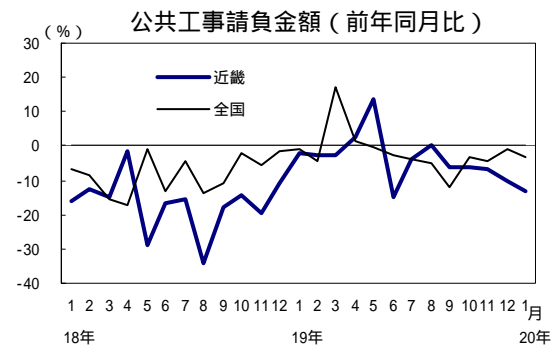
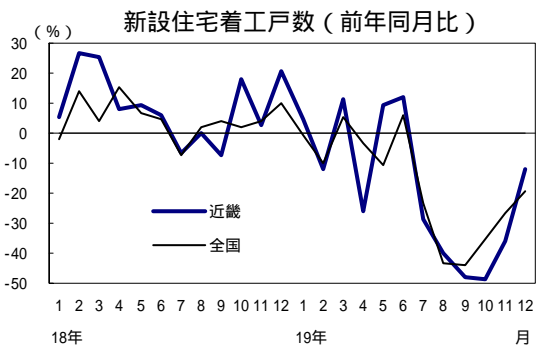
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

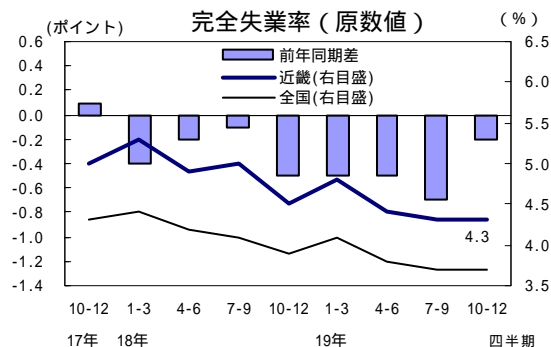
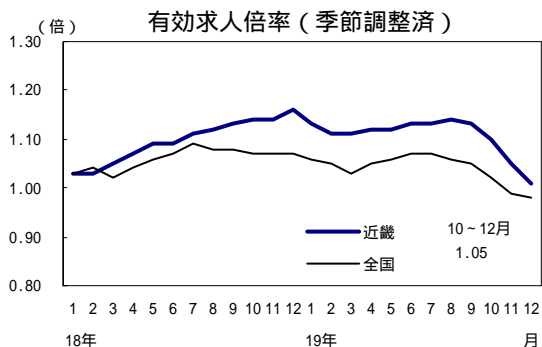
持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は、改善している。
 有効求人倍率及び完全失業率
 有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。

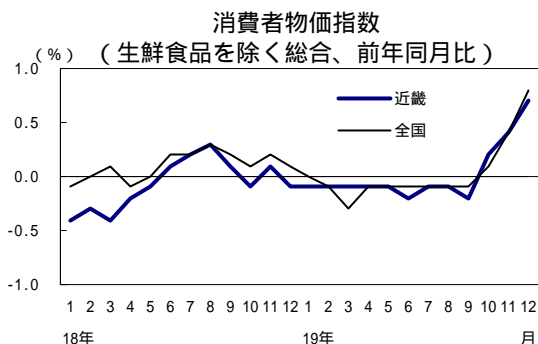


景気ウォッチャー調査(1月)[雇用関連(現状)]
 「3か月前と比べて新聞広告の動きは悪く、特に地元企業からの出稿に勢いが無い(新聞社[求人広告])」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、負債総額は減少しているものの、件数は増加している。
 (3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	20年1月
倒産件数	920	980	898	952	347
(前年比)	0.1	7.7	0.6	6.1	15.7
負債総額	2,242	2,102	1,547	2,500	637
(前年比)	37.5	11.1	25.1	24.3	27.9



景気ウォッチャー調査(1月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- サブプライムローン問題による株価の下落で、これまで不動産を購入していた富裕層が購入を見送るようになっている。また、銀行が不動産ファンドに融資しなくなったため、不動産ファンドが売りに回り、相場が下落している(不動産業)

<先行き>

- 建築基準法改正による工事の遅れが解消する期待や、当市臨海地域の液晶関連工場における、建設作業員の需要拡大の期待がしぼんできている(民間職業紹介機関)

